



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薊町長屋1963

(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net <https://3c-mie.net/>



寒さが緩んで過ごしやすい季節到来と思えば夏日かと思われる日もあり、やはり気候変動による影響なのでしょうか。桜に心とほほめす日々もあつという間でしたが、青空を見ると心も晴れやかになります。しかし遠い空の向こうでは想像をはるかに絶する事実が連日繰り返されていることを忘れてはなりません。報道を見聞きするたびに人の命のか弱さを実感させられます。

この世に生を受けた以上、人はみな平等で老いも若きも喜びや悲しみを共有し共感する。そしてそれをみんなで共時する空間が豊かな暮らしにつながるのだと思います。今回はそうした環境を提供された桑名市の取り組みを紹介させていただきます。



～新しい福祉のかたち～ 桑名福祉ヴィレッジがオープンしました！

令和4年4月、桑名市内に「桑名福祉ヴィレッジ」がオープンしました。本施設は、高齢者、障害者、子どもなどに対して通所や入所、相談などの福祉サービスを包括的に提供する多世代交流・多機能型の福祉拠点(多世代共生施設「らいむの丘」と、地域の人たちにとって憩いの場となる公園(ヴィレッジ公園(やまざきパーク))を一体的に整備した、これまでにない施設です。



伊藤徳宇桑名市長



ヴィレッジセンターの様子

本施設の完成により、高齢者、障害者、子どもなど、対象者や分野ごとに分かれた「縦割り」と言われる福祉施策を包括的に提供することで、地域で誰もが支え合う「地域共生社会」の実現が期待できます。様々な施設が同一敷地内に集まっているため、施設内での相互交流が可能となり、提供サービスの充実を図ることが可能となりました。また、新たに保育園が開設されることに伴い、保育園に子どもを預ける保護者が育児休業を取得する場合に保育園を退園していただく「育休退園」を、市全体で廃止したところです。

そして、敷地内の公園には、地域の人々が交流できるヴィレッジセンターや、日用品や地元でつくられた物品等を購入可能な店舗「らいむショップ」を併設しており、施設利用者だけでなく地域の人でも利用できるため、地域交流の促進も期待できます。

桑名福祉ヴィレッジの整備は、地域のつながりが希薄化している現代において、利用者同士の交流やコミュニケーションを創出することができる先進的な取り組みとなっています。

桑名福祉ヴィレッジは、平成29年、桑名市が所有する「養護老人ホーム」「保育所」「療育センター」「母子生活支援施設」を一か所に集約し、子どもから高齢者まで多世代が交流できる多世代共生施設として整備計画が開始されました。その後、桑名市が独自に行う民間提案制度「コラボ・ラボ桑名」へ、桑名市社会福祉協議会から提案が提出されたことにより、公募による選考を経て、「桑名市社会福祉協議会」「大和リース株式会社」との公民連携による整備が実現しました。

民間事業者のアイデアを活用することで、多様化・複雑化する福祉ニーズに応えることができるばかりでなく、建設の方法も工夫し、工期の短縮も可能となりました。また、市は土地を貸し、民間事業者が建設・運営を行うという全国的にも珍しい手法を用いていることも特徴です。





桑名福祉ヴィレッジの完成を契機に、お互いが支え合い、地域との交流を通じて充実した生活が送られるといったような、地域共生社会、つまり「新しい福祉のかたち」を着実に実現していくとともに、「行政、市民、事業者等」様々な人が垣根を越えて共に連携し、地域の中に存在する資源を活かし、新たな価値を創る「共創」の取り組みにより、持続可能なまちづくりを進めていきます。

桑名福祉ヴィレッジ(大和リース提供)

所在地：桑名市大字星川 2239-1

伊藤市長は、このオープンしたばかりの施設に今大変な状況にあるウクライナ難民の人たちの受け入れを表明されました。

玉城町で住民主体のまちづくり協議会が四日市大学岩崎恭典学長を招き講演会を開催しました！



講演会を開催したのは、玉城町の住民有志で構成する「田丸駅でつながるまちづくり協議会」です。この協議会は、町の玄関口でもある JR 田丸駅に住民が集い交流できる環境をつくり、自分たちが暮らす生活環境を考えていこうというものです。さらに老朽化した田丸駅を JR 東海や町役場に有効かつ有用な活用が出来るよう住民目線で提案をしていくことも重要な役割と整理されています。

2020年12月にスタートし、これまでに活動の仲間を募ろうとポスターを作成したり SNS を活用して活動を紹介したりしてきました。また住民アンケートの実施や住民の集いなど交流会を行い、意向調査に取り組んできました。

そして今月16日には、講演会が開催されました。



講師の岩崎先生は 2016 年に四日市大学の学長に就任され、総務省の「市町村合併アドバイザー」や「地域経営の達人」になってみえ、多くの自治体で各種委員会の委員長やアドバイザー、講師を務められています。



今回の講演では、地域の人口減少や高齢化を真正面から見据える必要があるとして、これまで暦年の人口動向や世の中の事象を紹介され、「今や昭和の常識は通用しない。一方で、地域はずっと存続する。そしてすでに22世紀まで生きる子供たちが生まれている。」として子ども、孫、ひ孫のために、我々は何をすべきか！ と、熱弁をふるっていただいております。

～お知らせ～

本来、会員のみなさんが集い、地域や自社等の課題を共有し、それを解決していくために、交流・活動して行こうということでスタートした「地域連携ネットワークみえ」でしたが、コロナ禍で一昨年の交流会からしばらく実現できませんでした。

この度、交流会を6月8日(水)午後に計画したいと考えています。

詳細はあらためてご連絡をいたしますが、ご予約をいただきますようお願いいたします。

事務局